

学校改革！教員の時間創造プロジェクト

ニュースレター 令和2年度（2020年度）第3号



第2回プロジェクト会議が開催されました



H30年度から始まった「学校改革！教員の時間創造プログラム」も3年目となり、最終年度になりました。現プログラムの成果と課題を明らかにしながら、R3年度からの新しいプログラム作成に向けて取り組んでいます。プロジェクト会議は、委員会のメンバーと学校代表の先生方の25人で協議を行っています。第2回会議（R2.6.29実施）では、コロナ対策としてオンラインも活用しながら、以下の3項目について協議しました。

部活動の在り方

長時間勤務の大きな要因の一つが部活動であることから、部活動の在り方や運営主体等、抜本的な見直しについて検討しました。

（主な意見）

- ・校務と切り離すことが大切。
- ・指導できる人をどのように確保するか。
- ・部活動の数を生徒数に応じて調整することはできるか。
- ・勤務時間内に終わるような日課の工夫をするとよい。

年間授業時数 授業時間の見直し

正規の勤務時間内でも工夫できることはないか、ということで「年間授業時数」や「授業1コマの時間」についても検討しました。

（主な意見）

- ・予備時数をさらに減らすことで、放課後にゆとりの時間を生み出すことができるのではないかな。
- ・オンライン授業については、内容の精度を上げる必要がある。

新規掲載事項

先生方から寄せられた「時間創造のタネ」をもとに、次期プログラムにはどのようなことを盛り込むか検討しました。

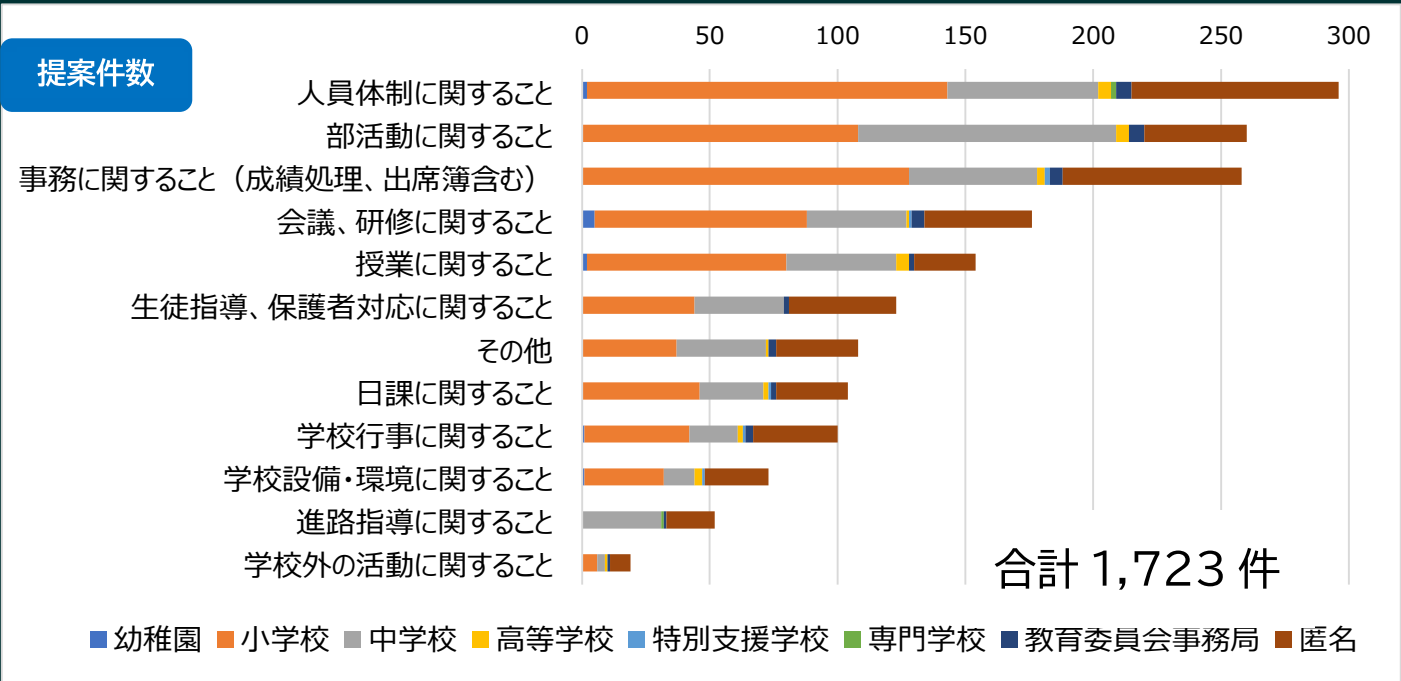
その中で、**通知表の簡略化**や**3学期制の見直し**などについて意見が出されました。



今後も、現場の先生方の声を大切にしながら、先生方がゆとりを持って子どもたちと向き合う時間や自己研鑽の時間を持てるよう協議を重ねていきたいと思ひます。

「時間創造のタネ」のアンケートには、1723 件ご返答いただきました。これは前回より 4 倍近い数字で、先生方の期待の大きさと受け止めています。多い順に人員、部活、事務に関することでした。

「時間創造のタネ」の集計結果について



先生方から頂いた「時間創造のタネ」



現状

人員体制に関すること

○外国語など専門性の高い教科は、教師の指導力にも差があり、子どもたちの学びの平等性が保てるか疑問だし、教師の負担感も大きい。(小学校)



学校規模によらず、専科の職員を配置してほしい。

部活動に関すること

○部活動が勤務時間外なのが負担。授業の準備は、その後に遅くまで残ってすることになる。(小学校)



指導員を広く募集する。教員で指導したいという人がいれば、校務と切り離し、指導員の枠組みに組み込めばよい。

○全校生徒の人数に対して、部活動の数が多いため、一つの部の担当教員が少なくなり、負担が増える。(中学校)



部活動の数を少なくし、少しずつでも地域へ移行していくのがいいと思う。

○部活動によっては、平日も19:30まで、土日も朝から夕方までと練習時間が長く、生徒・顧問の休息の時間が取れてない部もある。(高等学校)



すべての部が平日に一日、土日のうちの一日を活動しないという部活動規則の設定をする。学校ではなく、熊本市教育委員会の方針として、決定してほしい。

事務に関すること

○通知表に関わる業務が多い。(小学校)



2学期制にして回数を減らし、総合や外国語活動、道德等の評価を学年末のみとすると負担が減る。

○学校事務職員に偏重した事務業務の移管や新規事業の配分が過重な負担になり、大きなストレスを抱えている。(中学校)



適正な事務量になるよう、分担や手順の見直しを各課横断的に調整できるようにしてもらい、熊本市の学校事務職員の役割や機能を発展的に位置付けてほしい。

休校期間中の経験で、今後にかせること

○他の学校の先生方が作られたワークシートや、授業動画、いろいろな枠やひな形(所見のコメントなど)を、市内すべての先生方が共有できるシステム、またはアプリがあるといいと思う。

○研修会(主任会等)は、zoomで行えば、出張のために早く学校を出る必要はなく、旅費代もカットできる。

頂いたご意見は、全て大切に読ませていただきました。紹介させていただいたものは、ほんの一部ですが、ここにご意見も「タネ」を育てるために参考とさせていただきます。私事ですが、3月まで学校現場にいた時には、働き方改革がなかなか進まないと感じ、苛立ちや諦めの心境でした！(アンケートも嫌いでした(^-^;)しかし、教育委員会に来てたくさんの人や部署が、現場のために多くの時間をかけ、知恵を出し合い努力されていることを目の当たりにし、その時の自分を大いに反省しました。また、現場の声こそが大切な「タネ」だということも実感しました。蒔いたタネはすぐには芽が出ないかもしれませんが、大切に育てていきたいと思えます。



担当：万谷

発行：熊本市教育委員会事務局
教育総務部 学校改革推進課
TEL：(096) 328-2708